

「ンモー」。遠くから聞こえる牛の声に、思わず耳を澄ませます。7月現在、村で牛を飼う畜産経営体は9軒。村に移住して畜産に取り組み、と準備をしている人もあり、少しずつですが、村の中に、牛の姿が戻って来ています。

震災前、村は、畜産の村として、「飯館牛」のブランド化に取り組み、多くの畜産農家が力を合わせていました。また、環境を生かして酪農に励み、品質のよい牛乳の生産に取り組み、畜産家もありました。

震災と原発事故とが起きたのは、一丸となった取り組みが実を結び始めた頃でした。村が計画的避難区域に指定された時、牛農家のほとんどが、手塩にかけてきた牛を手放さざるを得なくなり、手放した。避難をさせたり、市場に出したり、村外の農家に買い取ってもらったり。牛の行き先探しは容易でなく、心情的にも非常に辛い作業が続きました。

また、全村避難は長期化し、豊かな自然を生かして営まれていた畜産・酪農の再開には、さらに相当な時間がかかるだろうと、人々は落胆しました。

しかし、その中でも、再開を目指す試みは、早期から一歩また一歩と進められていました。村は、県など関係機関と連携して、村内での実証に積極的に取り組みました。また、パドックでの飼養実証に取り組みんだ山田長清さん（伊丹沢）、放牧の実証に取り組みんだ山田猛史さん（関根・松塚）、避難先で畜産を続け村内でいち早く再開した佐藤（一郎さん（大倉）、小林稔さん（前田・八和木）、高橋政行さん（二枚橋・須萱）など、牛農家自身の切れ目ない努力が、大きな力となりました。

そして、今年もー。

「ンモー」。夏空に響くのかな牛の声と共に、畜産・酪農のトピックをお届けします。

んもー

リスタート（再出発）

RESTART

畜産・酪農の復活へ



震災前「もりの駅まごころ」で販売され、学校給食でも大人気だった鮎川ゆきさん（小宮）の米粉パン。現在は、避難先だった山形県の大石田町に、店舗を構えています。今年から移動販売が始まり、村内でもまた味わえるようになりましたよ。



ふっくら、もちりの食事パン。上品な甘さのスイーツパン。具材が充実！惣菜パン。どれもオススメです。

米粉パンの店 あおいそら

山形県北村山郡大石田町
横山748
☎0237-53-6251

【村役場での販売】
村役場のほっとコーナー
毎月第4月曜日 午後0時から午後0時30分
※都合により変更になる場合もあります
※売り切れ御免ですので来場はお早めに

【いいたて村の道の駅までい館での販売】
ホール内で時々販売があります



CONTENTS 目次

- 3 特集 畜産・酪農の復活へ
- 8 飯館百景 学びの宝庫 小学校
- 10 教育委員会NEWS! 校名の選定について ほか
- 12 ほけんとふくし 検診結果説明会
- 13 ほけんとふくし 乳がん・子宮がん検診
- 14 ほけんとふくし 百歳賀寿 ほか
- 15 おしらせのページ 参議院議員選挙結果報告 ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 そのころはっ ほか
- 20 おしらせのページ 7月のできごと ほか
- 21 入札結果
- 22 きてみて /ラオス通信。
- 23 こころのぼけっと / ひとのうさぎ
- 24 ホープス / 編集後記

村内のあちらこちらでヒマワリが咲いています。緑の山や夏の青空と鮮やかなコントラストを見せながら。高原のそよ風に吹かれて眺めるヒマワリ畑は最高です。表紙は13区営農組合が一面に咲かせたヒマワリ畑です。詳しくはP24で。



● 表紙のおはなし ●